

第17回 33台のピアノ



全教室に設置されている竪型ピアノ

本校に児童合唱団（キンダーコーア）が出来たのは創立5年目の1976年で、関孝夫第3代校長と音楽科の浅野武先生の尽力による。合唱団創立2年目の1978年5月、ベルギーはネーアペルト町で開かれた第26回ヨーロッパ青少年合唱祭に参加し、合唱指揮のプロの浅野先生の優れた指導と選曲の素晴らしさで、何と初参加で児童部の合唱コンクールに最優秀賞で優勝、本校の児童合唱団の存在は一躍広範囲に知られるようになった。現在も折に触れて交流が行われているルクセンブルクのモンドーカンジュ町のマリー・アストリッド王妃合唱団と知り合ったのもこの合唱祭の時であった。

もう一つ本校にとって大きな礎（いしずえ）が築かれた。この優勝を契機に子供たちが教室でいつでも自由にピアノが弾けて一緒に歌が歌える音楽環境を作りたい、という浅野先生の要望が理事会により認められたことであった。爾来(じらい)学校は予算を組んで毎年1～2台当地のカワイ楽器社からの多大なご便宜をいただきながら各教室用のアップライトピアノをコツコツと購入し続けた。その間にボンでの首脳会談に参加された総理大臣等からピアノや電子ピアノを御寄贈戴いたこともあるが、現時点では全部で25台のアップライトピアノ、4台の電子ピアノ、それに4台のグランドピアノ*という普通の小中学校では考えられない音楽環境になっている。

1971年4月に仮校舎のカニージュスハウスで開校した頃は教材教具文房具設備全てナイナイ尽くし。見るに見かねて当時当市に進出していた日本の商社部会が寄贈して下さったのが大変貴重な1台のカワイグランドピアノだった。このピアノは現在もなお体育館に常設され、子供たちの種々様々な会合や学校祭で活用されている。あと3台のグランドピアノは旧校舎の音楽室と新校舎の小ホールに2台あるが、小ホールのスタインウェイグランドピアノについては項を改めて記載する。

本校では開校以来音楽への関心は学校や生徒や保護者たちによって公的にも私的にも培われており、（なにしろ市内にはメンデルスゾーン、シューマン、ブラームスの生活した跡があり、100km南のボンにはベートーヴェンの生家やシューマン夫妻のお墓があるなどヨーロッパ古典音楽の風土に直に接せら

れる環境にある) 国際的に活躍するピアニストや演奏家達も出ている (開校初期に在籍した児玉麻里さん<11期生、指揮者ケント・ナガノ氏夫人>など)。ドイツ国内外で活躍する日本人を中心とする演奏家達が出演する本校の「音楽鑑賞会」は1974年以來の伝統的な音楽行事だが、2005年度の鑑賞会ではヴィオッティ国際ピアノコンクールに優勝するなど国際的に活躍している若手ホープの河村尚子(ひさこ)さん<26期生>に演奏してもらった。本校出身者の出演では第1号で、これからも多くの本校出身の国際的演奏家が出てくることを願っている。



体育館の記念すべきグランドピアノ(本文参照)。ピアノ演奏は日独で声楽を学ばれ、優れた指導者で声楽家、合唱指揮にも活躍する音楽科主任の星野高夫先生。



小ホールのスタインウェイC型グランドピアノ(2005年度音楽鑑賞会より)。ピアノ演奏はドイツ在住で世界で活躍し、日本を代表するコンサートピアニストの河村尚子(ひさこ)さん(26期生)。

***4 台のグランドピアノの設置場所：**

以前：(1)小ホール舞台上(スタインウェイ C 型)、(2)小ホール舞台裏、(3)旧校舎音楽室、(4)体育館。

現在：(1)小ホール (スタインウェイ C 型)、**そのまま**。(2)小ホールにあったグランド P.は 2023 年に全面修理し**体育館に移動**。(3) **音楽室、そのまま**。(4)体育館にあった開校以来の、寄贈されたグランド P.は、2024 年から音楽室の隣の部屋を「音楽準備室」とし、合唱パート練習、合奏練習室として使用するので、**体育館から準備室に移動した**。